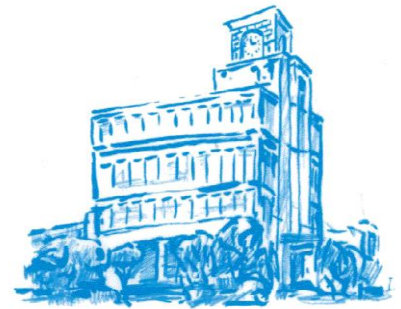




## 学びの相似形

伊丹市立総合教育センター  
所長 山下 拓志郎

令和5年度が始まりました。令和5年4月1日、時代を担うすべての子どもたちが将来にわたって幸せな生活ができる社会の実現を目指し、『こども基本法』が施行されました。本市では令和5年度教育基本方針に「子どもの最善の利益を視野に入れた教育を推進」を掲げていますが、総合教育センターでは、子どもたちや教職員の支援を通じて「子どもたちの幸せの実現」に取り組んでまいります。



さて、新型コロナウイルスによる全国一斉の臨時休業から丸3年が経過し、ようやく教室にも以前の風景が戻ってきました。新型コロナは、社会や教育に大きな変化をもたらしました。学校では、一人一台の端末が配備され、デジタル教材の配信など教育のデジタル化が急速に進みました。また、あたり前の日常が奪われたことにより、改めてコミュニケーションの大切さや命の尊さ、生きることの意味を考えさせられました。そして、何より「学校の役割」の大きさを痛感させられました。今後は、これらの貴重な経験を教訓とし、困難にも対応できるレジリエンスの高い学校をめざし、当センターでは多様な専門性を有する質の高い教職員の育成に取り組んでまいります。

みだしの『学びの相似形』という言葉は、「『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について」（令和4年12月中央教育審議会答申）の中に出てくる言葉です。そこには「主体的・対話的で深い学び」を実現するためには、教師にもその姿勢が求められます。教師の学びの姿も、子どもたちの学びの相似形であると示されています。

これからは、表情が見える学校生活が戻ってきます。笑顔も相似形です。総合教育センターでは、スタッフ一丸となって伊丹の子どもも教師も笑顔で、ワクワクしながら学べる授業が創造できるよう全力で支援してまいります。

[「『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について」](#) (外部リンク)

# 令和5年度伊丹市がめざす教育

(伊丹市教育基本方針より)

近年は、異常気象や新型コロナウイルス感染症の感染拡大、ロシアによるウクライナ侵攻など、誰も想定していなかった出来事が続いています。また、AIなどの先端技術の進歩も早く、10年後の世界は誰にも予測できません。これからの世代は、地球の温暖化や世界の分断など人類の存続に関わる難問に立ち向かっていかななくてはならないため、以下のことに重点を置いて取り組みます。

## ① 「主体性」の育成

言われたことを真面目に取り組むだけでは、先行き不透明な答えのない時代を生き抜いていくことはできない

### 【学校において】

教師主導の一斉授業から脱却し、子どもたちが学びの主体となる「**主体的・対話的で深い学び**」の推進

### 【家庭において】

- ①計画的に学習に取り組む**習慣の育成**
- ②**デジタル教材**の有効な活用



## ② 自尊感情の育成

### 【自分に自信が持てるようになる】

新たなことに**挑戦する姿勢**が生まれ、困難なことに遭遇しても**粘り強く取り組む**ことができるようになる

### 【自尊感情を高めるために】

現状を**直視**すること、**目標**を持つこと、**自ら考える**こと、**意識した生き方**を支援する



### 【確かな学力の育成に向けた取組のポイント】

- ・身近な**生活**と結びつく**教材**
- ・教科の**楽しさ**が伝わる**授業**
- ・**魅力ある**学校づくりやわかりやすい**授業**
- ・学習場面や**発達段階**に応じた**ICT**の有効活用
- ・デジタル教材を活用し、**習熟**に応じた**学習**や**個別最適な学び**の充実
- ・義務教育9年間を見通し、**小学校高学年**における**教科担任制**の充実

## ③ 「子どもの最善の利益」を視野に入れた教育の推進

### 【背景】

- ①いじめの重大事案や不登校児童生徒の増加
- ②いじめ防止対策推進法や教育機会確保法の施行

### 【対応】

国が12年ぶりに「**生徒指導提要**」を改訂したことを受けて学校行事の実施や不登校・いじめへの対応、校則の見直し等において「**子どもの意見**」を尊重するなど、**子どもの自発的・主体的な成長**を支える指導へシフト

令和5年4月に、「こどもまんなかの社会の実現」を最重要コンセプトに「こども家庭庁」が発足しました。子どもは、国の宝であり我が国や本市の将来は子どもにかかっています。子どもたちが、次代を担う有為な人材となるためには、主体性や自尊感情を育てるとともに、自分の存在が丸ごと受け入れられ、安心して過ごせる「居場所」が不可欠です。「**子どもファースト**」の視点で本市の教育を推進します。

# 授業力向上(カリキュラム)支援センター

授業力向上(カリキュラム)支援センター(通称:カリセン)では、「コンサルティング機能」「ワーキングスペースの提供」「コンテンツの提供」の3つの機能を通して、教職員の自主的・主体的な研究活動を支援しています。またアウトリーチ型支援として学校へ訪問しての指導・助言も行っています。

## コンサルティング機能でサポート！ワーキングスペースの提供でサポート！

- 経験豊富なコンサルタントが常駐し、教職員の様々な悩みに対応します。
- 授業づくりの支援を行います。
- 5階の部屋を自由に使えます。様々な人数、用途に対応できるスペースを用意しています。
- グループ活動や情報交換の場としても使えます。
- ICT機器の活用についても個別に相談に応じます。

## コンテンツの提供でサポート！

- 教育図書・雑誌が充実。貸し出しもできます。
- PC・電子黒板など、研修に必要な機器を貸し出します。
- プリンタ、コピー機なども使えます。
- 模造紙大まで印刷可能な大判カラープリンタ、一度に100枚までコピー可能なDVD複製機(CDも対応)があります。

## アウトリーチ型支援でサポート！

- 経験豊かなコンサルタントが授業を観に行き、授業づくりや学級づくりについて個別の指導・助言を行います。

## コンサルタントの紹介



後藤 猛虎  
コンサルタント



江原 礼子  
コンサルタント

### コンサルタントからの一言

「もっと授業がうまくなりたい」「もっとまとまりのある学級をつくりたい」など、多くの若い先生方が、日々の授業づくりと学級経営において、どうしたらよいか悩み迷いながら取り組んでいます。カリキュラムセンターは、そのような先生を応援するところです。どうか一人で悩まずにお気軽に相談にお越しください。一緒に考えましょう。

発行 伊丹市立総合教育センター  
所在地 〒664-0898 伊丹市千僧1丁目1番  
TEL 072-780-2480  
FAX 072-780-2482  
開館日 月・火・木・金 : 9:00~21:00  
水・土 : 9:00~17:00  
休館日 日曜・祝日、年末・年始  
総合教育センターHP <https://www.itami.ed.jp/>

### <教育相談>

電話 072-772-6171 (電話相談)  
072-780-2484 (来所相談)  
お子様に関する様々な悩みや課題、  
問題等の相談に応じています。  
(来所・電話相談)  
月・火・木・金 : 9:00~18:00  
水・土 : 9:00~17:00

## 令和5年度連載 (ICT活用事例集)

### 第1回 3年生理科 単元「風のはたらき」

#### ねらい

教材の作成手順を動画配信することで、各児童が動画を視聴し、それぞれの理解度にあった進み方ができる。

#### 活用効果

児童は必要に応じて動画をスロー再生や停止等を活用し、何度でも繰り返し見直すことができるため、理解を深められる。そして、児童は動画を観て教材を作成するため、教員は子どもの様子を確認できる時間が増え、個別最適な学びの実現が可能となる。また、学年等で動画を共有することで教員の負担が軽減できる。

